大丈夫よ！お母さん！

教育コーディネーター　中西美沙子

（今回のテーマ）

太陽の子どもたち

ヒマワリの花が咲きました。燃えるような黄色の花たちが、「生きていますよ」と、胸をそらせています。食欲も、大きな声も、泣きたいだけ泣くことも、ぜんぶゆるされているそんな子どもの世界が、ヒマワリと重なります。

ここ数年来、何か忘れ物をしたような感覚が、時々起こります。街中やレストランで、「きれいに飾られた」小さな子どもを見かける時も、そうです。ブランドの服。きらきらした髪飾りやバッグ。マニキュアの子まで。オシャレをするのは、たのしいことです。でも、過剰なものは不自然ですね。

美しさは、形から生れるものではないと思えます。例えば思春期のころは、お化粧などしなくても、素材そのものの美しさで輝いています。現代では、その感覚を見失っているのか、経済で演出されたものに心を動かされがちです。子どもの本当の輝きは、そこにあるとは思えないのです。

人の中にある自然な感じ、それを注意深く見なくてはならない時が今、必要ですね。

「風姿花伝（ふうしかでん）」という世阿弥（ぜあみ）が残したお能の本があります。能の心得として、「その時々の美しさ」を「時分の花」として語っています。若い時は何もしなくても様（さま）になっているし、余分なことをする必要がないと。それは多分、若さから生まれる輝きには、技術や方法ではかなわないと言っているのでしょう。室町時代のことです。能の作法手引書ですが、人の生き方をも示唆していますね。

先日、鎌田實さんの講演を聴く機会に恵まれました。その中で、心に残ったことがあります。お子さんとの関係でした。彼は「ベストファーザー賞」も受賞され、「いいお父さん」を自認していらしたそうです。「お父さん、嫌い！」。17歳の長女に、ある日突然言われ、ショックを受けた、と鎌田氏は語ります。なぜだろう？彼は、自分と子どもたちとの関係をたどります。気がついたことがありました。上の子の時と違い、この子には小さいころ、絵本を読んであげていなかった、と。夢中で仕事ばかりしていた自分に、気がついたのです。それから彼は、今何ができるか真剣に考えました。長女が、大学受験のための論文が苦手と言っていたことを思い出し、彼はある提案をします。それは、2人で同じ本を読み、感想や考えを話し合うことでした。結果、「こんな考えをする人間がいる」と娘さんは父親を、新たな目でみつめるようになったそうです。2人は論文を通して心を通わせたのです。

「お父さんって、面白い」。鎌田さんの長女の言葉を思い出しながら、私はいつでも人は、「育て直し」「生き直し」ができると改めて感じるのでした。

世阿弥が言った「花」とは、何気ない日常の中にある、子どもの姿ではないでしょうか。その姿を愛しみ育てるのも、たのしいものですね。

夏の日差しの中、太陽に向かってヒマワリが回ります。子どもが黄色の光に染まって走りだします。「好日性」という言葉と子どもが重なってきます。

熱い夏が終わると、ヒマワリの種は大きく地にこぼれるでしょう。そして、その種を拾って、私は次の夏の季節を思い浮かべることでしょう。

Profile

教育コーディネーター

中西美沙子

執筆・講演活動のかたわら、様々な部門の文化事業を展開する「（株）クレアシオン」の代表。文章教室「スコーレ」画廊「キューブ　ブルー」「建築プロデュースすまい」「食彩いわさか」「ときわ薬局」など。文章教室は書き方を教えるだけではなく、生き方や考える視野を学ぶところです。

問 tel 053-456-3770

中西美沙子　検索

ピアニシモでね

中西美沙子 著

著書の「ピアニシモでね」（東京書籍）は、中日新聞に連載された人気コラム「つかまえて！こころ」をまとめたもの。同著には、親子の問題もいろいろ描かれています。（税込1,500円）

※お求めは浜松市内の谷島屋で。